

**質の高い臨床教育・研究の確保事業
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	3
代表校名 (連携校名)	千葉大学		
事業名	高度な連携実践能力を有する人材養成と双方向情報システム構築による持続的かつ先導的な包括的臨床教育研究支援プログラム		
事業責任者	医学部附属病院長 横手 幸太郎		
事業の概要			
<p>本事業では、大学と関連施設が密接に連携することで臨床教育を充実させ、臨床研究支援チームが組織横断に活動することで臨床研究を促進させる。働き方改革の中で持続的、先導的な包括的臨床教育研究支援体制を構築する。診療参加型臨床実習推進には 1) 臨床実習直前教育の充実、2) 患者や医療職への説明と目安箱の設置、3) 指導医教育と教育コンテンツの充実、4) 地域医療機関との連携強化、5) 効率的な教育支援と安全管理、6) 組織横断的な多職種による指導・評価体制の構築を展開する。臨床研究推進には 1) 多職種で構成される組織横断的研究支援チームの構築、2) 研究支援チームの手順書及び教育研修テキストの作成、3) 研究支援者(臨床研究専門職員)の教育、4) 研究者と研究支援チームが協働した実務演習、5) 研究支援者指導育成スタッフの養成を展開する。これらにより高度な連携実践能力を有する人材を育成し持続的な支援体制を確立する。</p>			
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○患者や医療職への説明と目安箱を設置するという視点は、患者・医療職が臨床実習に積極的にかかわる動機づけになる点で、効果が期待できる。地域医療機関との連携強化などによる多様で多数の医学生の症例経験機会の確保は、素晴らしい提案である。</p> <p>○臨床実習の充実に向けて豊富な教育基盤に基づく堅調な事業計画とを感じる。臨床実習に向けてのガイダンスやシミュレーション、FD、地域医療機関との連携強化、多職種による指導・評価などは個々の取り組みとして臨床実習の充実には重要であろう。細部にわたりよく計画された事業計画書と考えられる。</p> <p>○研究支援者の育成は質の高い臨床研究の確保には重要と感じられる。テキストや標準業務手順書の作成による研究支援者の育成は標準化や早期育成の面から評価できる。</p> <p>○アウトカムとして、研修支援チームによる新規臨床研究支援件数や倫理審査委員会での承認・継続支援件数、研究の論文数など、妥当な水準で目標値が明確に設定されている点は評価できる。</p> <p>●臨床実習の充実に資する複数の視点と取組みを提示されているが、本事業で既存の枠組みを超えた新たな視点に基づく取組みの展開が加わることに期待したい。</p> <p>●地域医療機関や組織横断的な多職種指導体制について、より具体的な取組みの内容の記載があることが望ましい。</p> <p>●患者からのフィードバックは極めて重要な視点であり、目安箱は重要な試みとを感じる。ただし、目安箱である以上、無記名の自由な患者さんの医師に基づくご意見の投稿が主体となるので、どこまで実際に学生や教育者へのフィードバックとなるかは未知数であろう。</p> <p>●申請大学が独自に作成した「Kolb の経験学習モデル」をベースにした OJT プログラム教育研修テキストの経験を活用し、本事業でも教育プログラムの作成を行うことは先進性の点で評価できる一方、本事業により新たに新規性のある取組みを創出するという観点からはインパクトに欠ける部分もある。</p>			